

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (14) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

日本語の「アニメ」に対応する英語 animation には、「呼吸する物」が原義の Basic 語 **animal** が織り込まれていることをわれわれは知っている。同様に、本連載では Trump 大統領のツイッターでの書き込みを題材に、語の原義を Basic 語を尺度に迫っている。今回(1)では昨年 11 月の中間選挙(midterms / midterm elections)の 1 カ月前の時点での tweet までさかのぼってみる。(2)はコロンブス記念日に関するものである。

(1) You don't hand matches to an arsonist, and you don't give power to an angry left-wing mob. Democrats have become too EXTREME and TOO DANGEROUS to govern. Republicans believe in the rule of law — not the rule of the mob. VOTE REPUBLICAN! (October 6, 2018)

▲文中で小文字の too と大文字の TOO が両用され、これも文中での語強勢がそもそもは恣意的・流動的で、絶対なる基準のないことを示す 1 つの例である。

「放火犯人にマッチを与えはしない、左翼のやじ馬暴徒に権力を与えるな、民主党はあまりに過激で危険だ、共和党は法の支配を信頼し、やじ馬の支配には乗らないのだ、共和党に投票を！」と言っている内容である。マッチのたとえ話しは Trump 大統領の言うことらしくはないが、この 3 日ほど後、彼はほぼ同じことをテレビでも言った。

太線語 arsonist (放火犯) の arson (放火) はプラス α Basic 語 *ash* (灰)、un-Basic 語では ardent (情熱的な) などと同系で「燃えること」が原義である。

太線語 mob (やじ馬・暴徒・群集) に関しては本連載(9)で mobster (ギャング) を扱ったが、Basic 語 **move, motion**、プラス α Basic 語 *automobile* など、un-Basic 語では remote (遠い) などとも同系である。すべて「動くこと、移動すること」の語感がある〔他の同系語の例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(109)参照〕。

ここでは文中の下線で示した 5 つの動詞 V の hand, give, become, believe, vote を、前回見た生成意味論(generative semantics)での語彙概念構造(lexical conceptual structure : LCS)からの統語上への投射という考え方から、Basic 言語と絡めてその分析法を確認しておきたい〔末尾の vote は、同系語の観点からは devote (献身する)、vow (誓う) などと同系であることは前回触れた〕。原始意味述語(primitive semantic predicate)を用いた関数的な LCS の表記法はいくつか考えられはするが前回、[]x ACT-ON []y CAUSE [BECOME [[]y BE-AT-[ON/IN/WITH] []z]] を提示した。この分析法は必然的に Basic による表現法にも磨きをかけることになる。

動詞 V の hand であれば、この階層的 LCS での上位事象での変項 x はもちろん you、変項 y は matches、そして下位事象である CAUSE 関数・BECOME 関数・BE-AT 関数のもとで定項 z には、Basic 言語の場合であれば名詞 N の[HAND]z または形容詞 A の[HANDED]z が編入・代入(lexical incorporation)されると説明できる。

give は上位事象の ACT-ON で、変項 y は an angry left-wing mob、そしてこの LCS での BE-AT 関数の定項 z に名詞 N の[POWER]z、または形容詞 A の[POWERED]z が Basic 言語では編入される。なお、この場合の give も上の hand も新情報とともにアスペクトが関わり to-与格構文のみが可能で、対格構文(O₁+O₂)は不可である。

become は BECOME 関数そのものの支配下で変項 *y* が *democrats*、そして BE-AT 関数の定項 *z* に Basic なら名詞句 NP の [GREAT DANGERS]*z* などの編入となる。

believe は Basic では BE-AT 関数の定項 *z* に名詞 N の [BELIEF]*z* の編入となる。

最後の vote は Basic なら定項 *z* に、たとえば名詞 N の [SUPPORT]*z*、または形容詞 A の [SUPPORTED]*z* などがそれぞれ編入されるとやはり説明できる。

いずれにせよ、この類のモノ・コトの「変化と変化の結果状態」として見る事象分析 (event analysis) から語彙概念構造を生成意味論的に解き明かす LCS 分析は、C.K. Ogden の言う No 'verbs' in Basic English 「Basic には、いわゆる動詞 V なるものは存在しない」ことを実証する一端となる。上の例では *hand*, *believe*, *vote* は Basic 語ではないことを示すこととなる (*hand* は Basic 言語では名詞 N であり動詞 V ではない)。動詞 V を意味的・統語的にあぶり出し、意味関数上での operations (演算子) として最終的に 16 個 (当初は 13 個であったが) を析出した C.K. Ogden は、今日的な生成意味論風の解析法を 90 年も前に事実上見極めていたことになる。動詞 V が 0 (ゼロ) に淘汰されたわけで、やはり軽い 16 語に比重を置いて考えている限りは Basic は本当には見えてこないはずである [詳細は前々回と前回に参考文献として示した拙稿参照]。Jackendoff, R. の *Semantic Structures* (1990) など大いに参考となる文献である。

(2) Christopher Columbus's spirit of determination & adventure has provided inspiration to generations of Americans. On #ColumbusDay, we honor his remarkable accomplishments as a navigator, & celebrate his voyage into the unknown expanse of the Atlantic Ocean. (October 8, 2018)

▲アメリカにはコロンブス記念日 (10 月の第 2 月曜日) がある。この日は公の機関は休日になり、筆者も州立大学の学生であったので休講であったことを思い出すが、ここでは Trump 大統領がコロンブスの偉業を改めて称賛している内容である。

太線語 *adventure* の語根部 *ven* は *to come* の意味で、Basic 語 **event**, **invention** は同系であるし、un-Basic 語では *convenient* (便利な)、*avenue* (大通り)、*intervene* (介入する)、*prevent* (妨げる)、*advent* (到来・[A~]神の到来) なども同系 [同上拙著、第二部、例(100)参照]。なお、「来る」はラテン系スペイン語では *venir* である。

太線語 *provide* の語根部 *vi* は *to see* の意味で Basic 語 **view**、プラス α Basic 語 *envy* (ねたみ)、*visa* (ビザ・査証)、un-Basic 語では本連載(5)の①で語根部 *it* の視点から見た *visit* {*vis* (= *to see*) + *it* (= *to go*)} などが同系。[*vi*], [*viz*], [*vaiz*], [*vais*] などと響く語が同系となり、*advise*, *advice* などともそうである。PIE etymon の音素形は前々回に見た /WEID/ で、音素 /w/ はラテン系では [v] の音声をもつ語として多くの英語を生んだ。音声 [w] の痕跡を残している語には Basic 語 **wise**、プラス α Basic 語 *witness* (証人)、un-Basic 語 *wit* (機知)、*witch* (魔女) などがある [同上拙著、第二部、例(67)参照]。

太線語 *Americans* に関連し、国名 *America* を確認しておこう。コロンブスがアメリカ大陸を発見した？と言われるが、正しくは彼はスペインのイサベル 1 世女王の援助を受け西へと航海し 1492 年にアメリカに「たどり着いた」わけで、彼はそこがインドだと思ひ込み神への感謝の念からスペイン語で *San Salvador* 「聖なる救世者」と名づけた。今日、ここが中米のスペイン語名の国エルサルバドル (El Salvador) の首都である。*America* はコロンブスの後のイタリアの航海者 Amerigo Vespucci (アメリゴ・ベスプッチ) の名 (ラテン語名が *Americus*) に因んだもので、これは比較的知られている。

太線語 *celebrate* (祝う) は今日的なカタカナ語の「セレブ」からの類推で理解できる。専門文献では Shipley, J.T. (1984) などが *celebrate* は「素早く群がること、群

衆」の意味の PIE etymon /KEL/ に由来するとし、同系語に accelerate [ac (= to) + celerate (= to let ... go quickly)] (アクセルを踏む・加速する) などを提示している。

次の太線語 voyage はラテン系で、本連載(10)の(1)ですで見だが un-Basic 語 via(經由して)、またゲルマン系では[w]の音をもつ Basic 語 **wave, way** などと同系である。

最後の太線語 Atlantic は本連載(7)の②で扱ったギリシャ神話での巨人 Atlas に由来する。Atlas が宿るアトラス山脈の近くの海が Atlantic Ocean (大西洋) となった。

下線語 *unknown* (Basic では「未知数」の意味で用いるプラス α 語) の接頭辞 **un-** は単に否定で having no knowledge of の意味。一方、たとえば Basic 語 **unlocked** (錠の開いた) なら **un-** は反対動作を意味し、語彙概念構造 LCS は次のようになる。

cf. unlocked : BECOME [[]y BE [NOT-AT-[ON/IN/WITH [LOCK]z]]]

なお、Basic 語 **undressed** などは否定の「正装していない」の意味と、反対動作の「服を脱いだ、裸の」の両義(double entendre)となる。注意を要する。